

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 12 No.23 2010年12月15日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2010 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

NTT エレクトロニクス、フル HD 対応ひかり TV 電話を発表

NTT エレクトロニクス株式会社(神奈川県横浜市)は、フルハイビジョンひかり TV 電話 RiscaVision シリーズ「RV1000」を11月9日から販売と発表。販売は、オープン価格。(11月9日)

RV1000 は、NTT グループが一丸となって取り組んでいる、映像コミュニケーションビジネスの共通サービスブランド「ひかりカンファレンス」の戦略商品に位置づけられており、次世代ネットワーク(NGN)「フレッツ光ネクスト」の「ひかり電話」の帯域保証サービスを利用し、フル HD (1920x1080i) に対応した映像コミュニケーションが行える。

映像符号化方式には、H.264/AVC(High-profile)を採用。汎用 PC を装置本体とし、NTT サイバースペース研究所が開発した世界最高速レベルの H.264 並列処理ソフトウェアエンジン(RISCA264-HD)を搭載。片方向165msの低遅延。一方、音声符号化方式には、G.711/G.711.1(モノラル)、AAC-LC(ステレオ)に対応。映像入出力には、HDMI を使用する。ただし、出力には、DVI の選択も可能。また、音声入出力には、USB(RCAピン)を使用する。ちなみに、音声には、スピーカーマイクを推奨している。

NGN 光電話の帯域保証機能を用いて、パケットロスのないデジタル放送並の高品質な映像・音声の安定した映像コミュニケーションを実現しているのが特長と会社では説明している。

また、フレッツ光ネクストのファミリー回線/ビジネス回線に対応しており、2.5Mbps(15円/3分)から12Mbps(100円/3分)までの通信回線を選択できる。電話番号は、一般の電話番号方式(0AB~J番号)で接続が可能になっている。

製品構成は、本体(PCとキャプチャーボード)、ソフトウエ

ア(Risca エンジン)となる。ただし、ディスプレイ、カメラ、スピーカーマイクは、含まれない。なお、カメラは、HDMI に対応した HDTV カメラを使用できる。

NTT エレクトロニクスによると、遠隔監視、遠隔教育、遠隔医療、遠隔コンサル、企業内通信(アパレル、自動車、化粧品等)、映像中継、などさまざまな利用シーンでフルハイビジョンの高臨場感の映像・音声コミュニケーションの提供に最適という。

サムライズ、アドビ システムズ社の最新版「Adobe Connect 8」の販売開始

株式会社サムライズ(東京都中央区)は、米アドビ システムズ社が開発した企業向け Web 会議ソリューションの最新版「Adobe Connect 8」の販売を11月22日より開始と発表。(11月18日)

サムライズによると、近年では、Web 会議システムを用いた Web セミナーの開催や社内教育等、活用の幅は広がりを見せており、そのため、社内イントラネットシステムに組み込むなどのカスタマイズ要求も高まっているという。

そこで、会社では、そういった多様化するニーズに対応するため、独自の SDK を搭載し、高速処理を実現する「ActionScript3.0」で作成された Adobe Connect 8 の販売を開始することにした。ちなみに、ActionScript3.0 は、フラッシュ 9 以降に対応したプログラムを作成することができるオブジェクト指向スクリプト言語を指す。

Adobe Connect 8 の特長は以下の通り。(1)新しいユーザインターフェイスによるユーザビリティの向上。Web 会議の招集から、ビデオ/オーディオの管理、スクリーン共有の割当などをマウスで容易に操作ができる。(2)高度なチャット機能をはじめ、機能が拡張されたノートポッド、分かりやすい Q&A ポッド、ホワイトボード機能等を備える。(3)拡

張性の向上。デスクトップ AIR クライアント(Adobe Connect Desktop)を使用して会議を管理したり、マイクロソフトの「Microsoft Outlook」連携プラグインを使用すると、「Exchange Calendar」の空き時間に会議を招集したりすることが可能になった。さらには、ユーザインターフェイスのカスタマイズには、100 以上もの「Adobe Connect API」が利用できるのに加え、「Flash」、「Flex」、ActionScript3.0 をサポートした SDK を併用することも可能。(4)セキュリティ機能の強化。Web 会議への参加において、主催者が発行する管理パスワードが必要になるが、接続ユーザの制御や会議室へのアクセスを厳密に管理することができる。また、仮想化環境内での Web 会議を可能にする、「Citrix XenApp6」、「VMWare Vsphere」をサポート。

ピーシーエッグ、電話番号を伝え合わなくても通話を行える電話会議クラウドサービスを開始

ピーシーエッグ株式会社(島根県松江市)は、電話会議クラウドサービス「テルネ API」を、11 月 17 日より開始した。(11 月 17 日)

テルネ API は、ホームページや携帯サイトなどの Web システムから Web API を使うことで、ユーザ同士が互いに電話番号を伝え合わなくても通話を行えるサービス。

機能としては、会議室の作成や通話者の登録、また回線状態の通知などを提供する。これらの機能は、Web API を使うことで全て Web サイトから操作が行える。

サービス利用料金は、上限金額付きの従量課金で、初期費用が、契約回線数 x 5,250 円。また月額費用は、通話 1 分につき 10.5 円。ただし、上限は契約回線数 x 5,250 円。

ピーシーエッグでシステム開発を請け負った婚活サービスのやしろメイトの会員サイトにおいて、サイト内のメッセージ交換で会員同士が実際に会う前に、互いの電話番号を秘匿したまま会員間で通話が可能な「メイトフォン」の試験運用をおこなっている。テルネ API は、婚活、恋活サイト、ソーシャルネットワークサービスなど、人と人とがコミュニケーションを取り合うサイトでの導入に適していると同社では説明

する。

テルネ API では、2010 年 4 月からオープンソース IP-PBX の Asterisk に正式対応している、フュージョン・コミュニケーションズ株式会社(東京都千代田区)の「FUSION IP-Phone」を採用した。FUSION IP-Phone を使用している回線からテルネ API に接続するときは、通話料無料で使用することができる。

ピーシーエッグは、サーバホスティングから携帯サイトの自動作成システム、携帯メール配信、めくれる広告やパッシング広告によるプロモーションなど、インターネットを活用した各種サービスを提供している。

マイクロソフト、OCS の後継 Microsoft Lync 日本語版を発表、早期導入評価の実施、日本市場向けに 10 社のパートナー企業から対応デバイスやアプリケーションの提供

マイクロソフト株式会社(東京都渋谷区)は、企業向けユニファイドコミュニケーションプラットフォーム「Microsoft Lync(マイクロソフト リンク)」日本語版を発表した。(11 月 18 日)

Lync は、「Microsoft Communications Server」、「Microsoft Communications Online」、「Microsoft Communicator」として提供されてきたコミュニケーションプラットフォーム製品群をベースに新たに開発されたユニファイドコミュニケーションプラットフォーム。自社設置型(オンプレミス)型のサーバ製品「Microsoft Lync Server 2010」、クライアント製品「Microsoft Lync 2010」、クラウド版「Microsoft Lync Online」、ブラウザ上で動作する「Microsoft Lync Web App」から構成される。

電話中や会議中に、不在などの相手先の状況を確認しながら、インスタントメッセージングから電話やオンライン会議などに簡単に切り替えるなど、これまで複数のツールを使っていた様々なコミュニケーション手段を一元的かつシームレスに行うことを可能にする。たとえば、Lync により、場所を問わず、PC や Windows Phone など様々な種類の

デバイスを使用していつでも連絡が簡単に行える利便性がある。

また、「Microsoft Office」や「Microsoft SharePoint」および「Exchange」など企業内で広く使用されているアプリケーションとの連携、また、検索や企業内ソーシャルネットワーキング機能などを実装しており、同一の操作性で使用できるだけでなく、システム運用コストの低減や生産性の向上、効率的かつ効果的なコミュニケーションが実現できるとマイクロソフトでは説明する。

日本においても、すでに関電システムソリューションズ株式会社(兵庫県西宮市)、シャープ株式会社(大阪市阿倍野区)、株式会社ニコン(東京都千代田区)において、Lync の早期導入評価が開始されているほか、マイクロソフト社内においても、東京オフィスと関西支店を対象に Lync をコミュニケーションプラットフォームとして全面導入する予定となっているという。

一方、日本市場向けに 10 社のパートナー企業から、Lync に対応したデバイスや、Lync プラットフォーム上で稼働するアプリケーションが提供される。

なお、11 月 18 日より購入前の検証用などに活用できる Lync 無償試行版をマイクロソフトの製品サイトよりダウンロード提供している。

ビジネス動向-国内

ブイキューブとコクヨ S&T、Web 会議システムとフル HD 対応テレビ会議システムの販売で提携

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)とコクヨ S&T 株式会社(大阪市東成区)は、2010 年 12 月から両社のシステム及びサービスを相互に販売開始することで合意した。(11 月 17 日)

ブイキューブは、コクヨ S&T の「meetima XVD コミュニケーションシステム」の販売を行い、一方で、コクヨ S&T は、ブイキューブの「V-CUBE」の販売を行う。ハイビジョンクラスの高画質を要望するユーザ企業には、meetima XVD コミュニケ

ーションシステム、そして、資料共有やパソコンからの遠隔会議向けには、V-CUBE を提案する。

また、meetima XVD コミュニケーションシステムと、V-CUBE を組み合わせた、クラウド対応型会議サービスも提供する。このサービスでは、meetima XVD コミュニケーションシステムで開催されるテレビ会議の様子を「V-CUBE ミーティング」で映像音声中継する。専用端末を持たない相手先や外出・出張中のメンバーでもパソコンやスマートフォンから自在に会議への参加が可能になる。また、iPad を使った資料共有にも対応する。

Web 会議とテレビ会議を組み合わせることのメリットについて、両社は以下の点を挙げる。(1)遠隔地からもパソコンやスマートフォンで会議への参加が可能となる。(2)多人数が参加するメイン拠点にテレビ会議、サブ拠点や外出者には Web 会議といった環境に合わせた導入の選択が可能になる。(3)会議のみならず、社内外研修、遠隔授業、学術研究会などのさまざまなコミュニケーション分野での利用が期待される。

今後、ブイキューブとコクヨ S&T は、両製品を組み合わせた、クラウド環境による遠隔コミュニケーションのソリューション開発を進めていく予定。

ブイキューブは、2011 年度の導入社数の目標を、100 社と見込んでいる。

製品・サービス動向-海外

ラドビジョン社、マイクロソフト Lync とビデオ会議やテレプレゼンスを相互接続するゲートウェイを発表

イスラエルのラドビジョン社は、新たに「SCOPIA Unified Communication Gateway for Microsoft Lync(スコーパー ユニファイドコミュニケーション ゲートウェイ フォー マイクロソフト リンク)」を発表した。(11 月 17 日)

今回発表になった SCOPIA UC Gateway は、標準ベースのビデオ会議システムやテレプレゼンスシステム、あるいはモバイル・ビデオ・ソリューションと、マイクロソフトの

Lyncとの相互接続や連携を可能にするゲートウェイ装置。ラドビジョンとマイクロソフトとの共同開発によるもので、特にLyncのニーズに対応するために新しく開発されたアーキテクチャ・プラットフォームを採用したという。

特長としては、標準ベースのビデオ会議端末や「SCOPIA Elite MCU」などの多地点接続装置との接続性実現、高品位音声と高解像度(HD)への対応、Lyncとビデオ会議システムとのプレゼンス連携などがある。また加えて、Lyncユーザーは、今まで通りの使い慣れたインターフェイスでのコミュニケーションも可能だ。

マイクロソフトによると、今回のSCOPIA UC Gatewayは、Lyncに対して拡張性のひとつを提供するもので、これによって広範な選択肢をユーザーに提供できると述べる。一方ラドビジョン社は、1994年初めてIPゲートウェイを発売して以来、これまでほぼ全てのネットワークに対応するビデオ機器向けのソリューションを提供してきたが、今回の製品には、今まで積み重ねてきたビデオ相互接続の経験が生かされているという。

SCOPIA UC Gatewayは、2011年第一四半期に出荷の予定。ラドビジョン社は、世界に11の販売拠点、3のR&D拠点を持つ。2000年にNASDAQ上場(RVSN)。アジア太平洋本社は香港にある。日本法人は、RADVISION Japan株式会社(東京都台東区)。

ヒューレット・パッカート社、デスクトップPCおよび会議室向けのビジュアルコラボレーションシステムの販売開始

米ヒューレット・パッカートカンパニー社は、高解像度の映像を実現するデスクトップPCおよび会議室向けのビジュアルコラボレーションシステムの販売開始を発表した。(11月17日)

今回発表された新しいソリューションには、以下が含まれる。

(1)「HP Visual Collaboration Desktop(HPビジュアルコラボレーションデスクトップ)」。ソフトウェアクライアントソフトで、

ユーザーのデスクトップPCもしくは、ノートPCにインストールするタイプ。



HP Visual Collaboration Desktop(HP資料)

(2)「HP Visual Collaboration Executive Desktop(HPビジュアルコラボレーションエグゼクティブデスクトップ)」。バンドル式のタッチスクリーンソリューション。HP Visual Collaborationソフトウェアを搭載した「HP TouchSmart 600 Quad(HPタッチスマート600クアッド)」にて提供。カメラ、ヘッドセットアクセサリも付属している。



HP Visual Collaboration Executive Desktop (HP資料)

(3)「HP Visual Collaboration Room 100/Room 200」。会議室向けのシステム。

(4)「HP Visual Collaboration Portal(HPビジュアルコラボレーションポータル)」。「HP ProLiant DL360」サーバ上にあらかじめ構成して提供する。このVisual Collaboration Portalを使用することで、IT管理者は、リモートでシステム設定を行ったり、システムコンポーネントの認証やライセンス付与などしたりすることが可能。



HP Visual Collaboration Room 100(HP 資料)



HP Visual Collaboration Room 200(HP 資料)

(5)「HP Visual Collaboration Router(HP ビジュアルコラボレーションルーター)」。HP のサーバアプライアンスで提供され、メディアの分散ルーティング機能をもつ。

(6)「HP Visual Collaboration Gateway(HP ビジュアルコラボレーション ゲートウェイ)」。このゲートウェイを利用することで、H.323とSIPプロトコルに接続することを可能にする。

今回のソリューションは、VidyoのSVCビデオコーディング技術 HP社とVidyo社が今年6月に提携することで、実現したもので、HP社は、来年、現在販売している没入型(イマーシブ,immersive)スタジオ機能(HP Halo)を、デスクトップおよび会議室用ソリューションと結合させるテクノロジーを提供する予定という。

シスコシステムズ、ビデオコラボレーションの新製品を発表、コラボレーション向け端末は今後全てビデオ対応

シスコシステムズ合同会社(東京都港区)は、「Cisco TelePresence」とビデオコラボレーションの新製品を発表した。(11月24日)

シスコによると、今後発表する全てのエンタープライズ向けコラボレーション向け端末製品は、全てビデオ対応させていくとともに、「Cisco Unified Communications Manager(シスコ ユニファイドコミュニケーションズ マネージャ)」との相互運用性が標準装備されるという。

今回発表された製品は次の通り。



(写真上) Cisco TelePresence EX60 / EX90



(写真左) Cisco TelePresence System 500 32" (シスコシステムズ資料)

(1)デスクトップ用およびオフィス用のパーソナル端末。

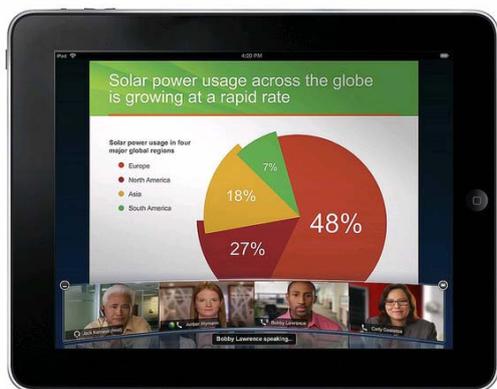
「Cisco

TelePresence EX60」、「Cisco TelePresence System 500 32"」。Cisco TelePresence EX60は、すでに販売している「Cisco TelePresence EX90」よりもひとまわり小さな本体と本体価格が約30%抑えられている。一方、Cisco TelePresence System 500 32"は、個人のオフィス環境があるエグゼクティブ向けにデザインされた据え置きタイプ

の端末。すでに販売されている「Cisco TelePresence System 500 37」に比べ形状は一回り小さく、価格も 30%抑えられている。



Cisco WebEx 高画質モード(シスコシステムズ資料)



Cisco WebEx Meetings iPad 2.0 (シスコシステムズ資料)

(2)「Cisco WebEx Meeting Center(シスコウェベックスミーティングセンター)」の高画質ビデオ機能対応。フルスクリーン画像に会議参加者を映し出すとともに、ユーザ同士でデスクトップ画面を共有することができる。さらには、「Cisco WebEx One Touch(シスコ ウェベックス ワンタッチ)」を使って簡単に Cisco TelePresence 会議に接続できる。加えて、「ActivePresence 機能」も備える。会議の参加者全員を画面下に一行に映し出すことができるが、発言者はフルスクリーンモードで映される。また、音声により作動するスイッチで、発言者が変わると新しい発言者がフルスクリーン画面で映し出される仕組み。この機能は、「Cisco TelePresence Server(シスコテレプレゼンスサーバ)」を利用することで、

Cisco TelePresence 端末でも実現可能。

(3)「Cisco TelePresence Exchange System(シスコ テレプレゼンス エクスチェンジ システム)」のこのソリューションを使用することで、サービスプロバイダーは、独自のクラウドベースのテレプレゼンスエクスチェンジサービスを構築し、ホスト型やマネージド型のテレプレゼンスサービスを提供できる。

(4)「Cisco TelePresence Directory(シスコ テレプレゼンス ディレクトリー)」これは、企業やエンドユーザが、通話可能な相手を特定できるグローバルなディレクトリー機能を提供するもの。社内で会議の予定を立てる際に、必要な情報を得られるだけでなく、ポリシー制御やプライバシー、セキュリティの維持機能も備えられている。

米 XVD 社、1080p に対応したテレプレゼンスシステム、北米向けに発売

米 XVD 社は、北米市場向けの HD テレプレゼンスシステム「EspressoHD(エスプレッソ HD)」の発売を発表した。(11月4日)

EspressoHD は、ハードウェアアプライアンス製品で、解像度が 1080p に対応しており、外部 MCU なしに自端末を含め 5ヶ所同時の HD テレビ会議多地点接続が可能。加えて、消費電力は、25W と他のテレプレゼンスシステムと比較して低い。この製品化には、同社が強みとしてもつ音声や映像の圧縮技術関連で 16 の特許技術が活用されているという。

価格については、他のテレプレゼンスメーカー製品よりも低コストで導入ができ、製品のセットアップは、家庭にあるテレビのセットアップと変わりがないくらい簡単だという。本体と、ディスプレイモニターや、T1(1.5Mbps、推奨回線)に接続し、電源を入れれば、すぐに起動し、テレビ会議が行える。

今後は、他社製テレプレゼンスシステムとの相互接続を実現していく予定で、近々それに対応した最初のソリューションが発表されるようだ。

またプレスリリースによると、Mitsubishi Chemical Center for Advanced Materials(日本との社内コミュニケーション)や Telemarketing Japan(本部と3支店、7コールセンター間で使用。社内会議やクライアントからのフィードバックを連絡。)、あるいは、ザンビア政府(遠隔教育目的で国内の大学に設置。)などの事例が紹介されており、北米以外の市場で今年の初め頃先行販売されているようだ。

ビジネス動向-海外

Vidyo 社と Arkadin 社、HD ビデオ会議サービスで提携

米 Vidyo 社と、電話会議とウェブ会議サービスを提供している Arkadin 社は、グローバル展開を含めた複数年の提携に合意したと発表。(11月16日)

この提携に基づき、Arkadin 社では、まずフランス、日本、アメリカの3国から「Vidyo Conferencing(ヴィデオコンファレンシング)」の提供を開始し、2011年には、全世界に拡大する予定だ。

Arkadin 社としては、2001年より、同社の包括的ソリューションの一部としてビデオを提供してきたが、その後9年の間に、ユーザからの需要が増大したため、今回 Vidyo 社の HD ビデオ会議技術を採用することになった。これにより、Arkadin 社の既に提供している電話会議と Web 会議のサービスラインナップを強化することになる。

Arkadin 社は、日本を含め 23 カ国に展開しており、毎月 300 万のユーザが同社サービスを利用しているという。

PGi 社、FAX 事業部門を EasyLink Services International 社へ売却、電話会議や Web 会議などのサービスへ特化

PGi 社は、同社の FAX 事業部門を担う Xpedite System 社を、EasyLink Services International 社(NASDAQ 上場企業)へ売却すると発表。(10月21日)

売却額は、1億500万ドル。PGi 社は、今回の売却によって受ける収入の一部を、タームローン(5000万ドル)の返済や、取引に関わる費用および契約手数料、さらには、戦略

的買収のための積み立て、そして、自社株購入などの目的に活用する。

FAX 事業の売却によって、同社は、電話会議や Web 会議、およびテレビ会議などのバーチャル会議ビジネスにフォーカスする。バーチャル会議は、エグゼクティブ向けのものから、企業では誰でもが使うツールとして成熟(cultural phenomenon)してきており、今後同グローバル市場は、大きく拡大されると期待されているためだ。

PGi は、日本を含む 24 カ国に同社事業所を置き、社員数は、約 2,300 人。顧客は、3 万社を越え、フォーチュン 100 社の 75%が同社サービスを利用している。月に、1500 万の利用者/400 万回の会議サービスを提供しているという。ニューヨーク証券取引所に上場している。日本では、電話会議や Web 会議サービス(PGiMeet)は、プレミアム コンファレンシング株式会社(東京都中央区)が提供している。

システムインテグレーター ePlus 社、タンバーク ブラチナパートナー ITI 買収、コラボレーションソリューションのワンストップ提供を目指す

システムインテグレーターの米 ePlus 社の関連会社である ePlus Technology 社は、Interchange Technologies 社(ITI)の買収を発表した。(11月11日)

ePlus 社は、シスコ社の「Cisco ゴールド サーティファイド パートナー」であるとともに、「Cisco TelePresence オールソライズド テクノロジー プロバイダー」、「Cisco マスター ユニファイド コミュニケーション スペシャライズド」、「Cisco WebEx サーティファイド コラボレーション ソリューション パートナー」として認定されている。一方、Interchange Technologies 社は、タンバーク ブラチナ パートナー。ePlus Technology 社が同社を買収することで、ビデオ会議製品関連のポートフォリオを拡充し、コラボレーションソリューション全般でのワンストップ提供を目指す。買収金額は、非公開。

ポリコムと BroadSoft、関係強化により、サービスプロバイダー向けの UC ソリューションを提供

ポリコム社と BroadSoft 社は、サービスプロバイダー向けのユニファイドコミュニケーション(UC)クラウドソリューションで両社の提携を拡大したと発表。(11月24日)

この包括的ソリューションは、エンドツーエンドの「Polycom HD Voice」や「Polycom HD Video」の他、国際標準に準拠した他社製 UC システムとのオープンな相互運用性、そして、企業間のテレプレゼンスアプリケーションを提供する。

このソリューションは、最近発表された「BroadSoft BroadCloud Video(ブロードソフト ブロードクラウド ビデオ)」ホスティングサービスと、HD 対応ビデオ会議システム「Polycom HDX」とビジネスメディアフォン「Polycom VVX 1500」を統合したもので、その基盤には、テレフォニープラットフォーム「BroadSoft BroadWorks (ブロードソフトブロードワークス)」と、ポリコムの Polycom HD Voice によるデスクトップおよび会議室向けテレフォニーソリューションがある。

今後、両社は、市場参入サポート、販売支援、需要促進活動などを含めたサービスプロバイダーの UC サービスへの移行支援をさらに強化する。

これによって、サービスプロバイダーは、テレフォニーホスティングサービスを拡張し、グローバルで急成長している UC ホスティングサービスの需要に対応できるという。ちなみに、この発表で引き合いにだされた Wainhouse Research 社の予想では、この市場は、2014年には、約60億ドル規模に成長すると予測する。

ポリコムにとって、クラウドベースのサービスは、あらゆるデバイスを使用してどこからでもコミュニケーションを行うことを目指す同社の UC Everywhere 構想と UC の普及を促進する上で、非常に重要な役割を果たすという。

BroadSoft BroadCloud Video は、常時利用可能な HD ビデオ会議サービス。幅広い会議室、デスクトップ、ソフトウェアクライアントをサポートしている。BroadSoft 社は、Glowpoint 社と提携して、Glowpoint の「Open Video」プラット

フォームおよび「Telepresence interexchange Network(TEN)を活用し、企業の境界を越えたビデオコミュニケーション配信を促進する計画という。ポリコムのテレプレゼンスシステムと統合され、オープンな相互運用可能な B2B ビデオコミュニケーションをサポートする。

サムスン電子と米ポリコム、モバイルプラットフォーム向けのユニファイドコミュニケーションソリューションの提供で合意

韓国のサムスン電子と米ポリコムは、モバイルプラットフォーム向けのユニファイドコミュニケーションソリューションの提供で合意したと発表。(11月24日)

この合意によって、ポリコムは、Android 搭載の「Samsung GALAXY Tab」向けに国際標準に準拠したビデオアプリケーションを開発し、GALAXY Tab に組み込んで提供する。ポリコムのモバイルビデオ戦略では、多数のデバイスにユニファイドコミュニケーションをサポートする考えで、その中で、H.264/SVC が重要な要素になる。

このビデオアプリケーションは、GALAXY Tab 同士はもとより、国際標準に準拠したテレプレゼンスやビデオ会議システム、あるいは、アプリケーションとの接続ができる点が特長。ユニファイドコミュニケーションに、モバイル(3G および 4G)でアクセスでき、1対1の対話やグループでの対話を HD 品質で実現できる。加えて、サムスンのモバイルデバイスは、ディレクトリーとチャット機能を搭載するため、ユーザは、相手を簡単に探してコミュニケーションを取ることができる。

ポリコムによると、今回の GALAXY Tab へのビデオアプリケーションの実現により、他の競合企業とは違い、ポリコムの包括的なソリューションポートフォリオは、モバイルシステムから、会議室向けビデオ会議システム、そして、デスクトップ型ビデオ会議システムと完全に統合できるという。

Vidyo 社の Dr. Alex Eleftheriadis 氏、業界団体 UCIF の SVC タスクグループのチーフエディターに就任

米 Vidyo 社は、同社の共同創業者でチーフサイエンティストの Dr. Alex Eleftheriadis 氏が、業界団体 UCIF(Unified Communications Interoperability Forum)の SVC タスクグループのチーフエディターに選出されたと発表。(11 月 15 日)

UCIF は、ユニファイドコミュニケーションの分野での標準化を進めていく目的で設立された業界団体。この SVC タスクグループでは、H.264/SVC の相互接続性を推進する。そこで、この SVC グループのチーフエディターに Vidyo 社の Dr. Alex Eleftheriadis 氏が就任する。Dr. Alex Eleftheriadis 氏は、同社の技術ビジョンや方向性に関する責任者であり、標準化会議などでは、同社を代表する。

Eleftheriadis 氏は、過去に MPEG-4 のエディター、H.264/SVC コンフォーマンス規定に関する共同エディター、また、IETF における、SVC 向け RTP ペイロードフォーマットの共同エディターの実績がある。また、100 以上もの発行物での執筆経験、さらには、北米では、16 の特許を持つ。加えて、特許申請中が、19 件ある。ビデオ圧縮やコミュニケーション技術で著名な先駆的技術者で各種賞や発明技術もある。それらは、ブルーレイ DVD やデジタルテレビ技術などで応用されているという。

Vidyo 社は、今回の発表に加え、同社の SVC 技術開発チームに新たに、H.264/AVC や SVC に経験を持ち、特許ホルダーでもある、Dr. Stephan Wenger 氏や Jill Boyce 氏が加わったとも発表した。

Vidyo 社の SVC 技術は、ウォールストリート誌の「2010 年テクノロジーイノベーションアワード」を受賞している。日本人 Vidyo Japan は、東京都港区赤坂にある。

ポリコム、SVC 技術開発やブリッジング機能など UC 向け技術革新計画を発表

米ポリコム社は、モバイル、中小企業(SMB)、消費者などが求めるデバイス、アプリケーション、ネットワークの要件の対応するためにユニファイドコミュニケーション市場向けに UC 製品ポートフォリオをさらに拡張するなど、UC 市場の成長と技術開発を促進する計画を発表。その中で、ポリコムは、オープンな相互運用性と下位互換性が重要な鍵を握ると考えている。(11 月 24 日)

まず取り組みの第一点目は、H.264/SVC の技術開発。今後既存ソリューションや将来のソリューションに採用し、UC 戦略を推進する。また、オープンな相互接続を推進する、UCIF(ユニファイド コミュニケーション インターオペラビリティ フォーラム)などの業界団体に参加する戦略的パートナーに無償で提供する考え。

第二点目は、「ユニバーサルブリッジング機能」の提供。ポリコム社は、「Polycom UC Intelligent Core(ポリコム UC インテリジェントコア)」インフラストラクチャプラットフォームを拡張し、これに対応する。この機能によって、H.264/SVC や TIP(Telepresence Interoperability Protocol)、または、Google Jingle などの新しいプロトコルを長期的にサポートする。

第三点目は、デスクトップ向けビデオコミュニケーション販売の強化。マイクロソフト社は、既にポリコム社と、統合された UC ソリューションの提供および販売のための戦略的関係を構築すると発表しているが、その一環として、マイクロソフト社は、ポリコムの H.264/SVC を採用する意思を表明した。H.264/SVC とマイクロソフトのソリューションを統合することで、大企業、中小企業、ホームオフィス、公共などのネットワーク環境に対応した UC ソリューションを提供する考えだ。ポリコムは、同社の UC Everywhere 戦略において、クラウドコンピューティングやモビリティソリューションにも力を入れる。

導入・利用動向

大東建託、大規模テレビ会議システムを導入

大東建託株式会社(東京都港区)は、大規模テレビ会議システムを新たに導入したと発表。(11月1日)



テレビ会議システム導入(大東建託 資料)

同社では、拠点数としては、最大256拠点で一斉に会議に参加できるテレビ会議システムを新たに導入した。また、会議数としては、最大105会議を同時に開催することも可能であるという。ネットワーク回線には、100Mbpsの大容量回線を2本使用し、本社と各拠点を結ぶ。

このシステムでは、画面上で「Microsoft Excel」などの資料共有が行えるとともに、発言請求(挙手)、または同時集計が可能なアンケート機能などもあるという。解像度には、720x485ドットを採用。手持ち資料の文字や顔の表情も伝わると評価する。

業務効率化や環境負荷軽減の目的と合わせて、経営方針などを文書ではなく音声と映像を使って全支店に一斉に浸透させる効果がテレビ会議にあると評価し今回の導入に至ったようだ。

大東建託株式会社

<http://www.kentakaku.co.jp/>

セミナー・展示会情報

<国内>

Web会議/Webコラボレーション SaaS Baord 無料セミナー
劇的経費削減をもたらす Web 会議選びのポイント

日時:12月22日(水)13:30~17:00(開場/受付開始:13:00)

場所:渋谷区商工会館 2F セミナー室 (東京都渋谷区)

主催:ニューロネット株式会社

詳細・申込:http://www.neuronet.co.jp/eventSeminar.html#sb_seminar2

ビデオ会議システム “徹底的使いこなし” セミナー
~ 時代の変化、ニーズに合った業務のあり方とは ~

日時:1月19日(水)14:30~17:00(受付:14:00)

場所:パナソニック電工インフォメーションシステムズ
東京オフィス セミナールーム(東京都港区)

主催:パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社

共催:シスコシステムズ合同会社

詳細・申込:<https://event.panasonic-denkois.co.jp/public/seminar/view/141>

ビデオ会議システム “徹底的使いこなし” セミナー
~ 時代の変化、ニーズに合った業務のあり方とは ~

日時:1月19日(水)14:30~17:00(受付:14:00)

場所:パナソニック電工インフォメーションシステムズ
梅田セミナールーム(大阪市北区)

主催:パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社

共催:シスコシステムズ合同会社

詳細・申込:<https://event.panasonic-denkois.co.jp/public/seminar/view/138>

<海外>

The WR Visual Communications Summit

Bringing Suppliers, End Users, Channel Partners, & Service Providers together in an interactive forum on Driving Business Transformation with Visual Communications Solutions

日時:2011年1月31日~2月1日

会場:Integrated Systems Europe - Amsterdam と同会場

主催:Wainhouse Research, LLC

詳細・内容:

<http://www.wainhouse.com/events.php?sec=34&opt=upcoming&event=395>

編集後記

今年もお読み頂きまして有り難うございました。

11月18日、12月8日 VTV ジャパン主催 実践! ビジュアルコミュニケーションの最新活用セミナーで講演させていただきました。定期レポートの読者の方でご参加された方がいらっしゃいましたら御礼申し上げます。その際の資料は↓からダウンロードできます。ご興味がありましたら、よろしくお願ひ致します。

http://cnar.jp/slides/cnar_20101208.pdf

今年の発行は、この12月15日号で終了し、来年は、1月15日号からスタートします。

ちょっと早いですが、それでは、良いお年をお迎えください。

来年も何卒よろしくお願ひ致します。(橋本)